

# 2022年(令和4年)度事業報告

(自：2022年4月1日／至：2023年3月31日)

公益財団法人 国際仏教興隆協会

## I. 当法人事業の特徴

今年度の当財団事業を、主な事業が展開されるインド、ビハール州ブッダガヤ 印度山日本寺を拠点とした宗教福祉事業について述べ、また、日本国内における事業の実施状況と現状について述べる。

## II. 今年度の運営と事業

コロナ禍3年目、2022年4月以降ブッダガヤが位置するガヤ県(人口約60万人)の1日の新規感染者数はビハール州保健省の発表によると、1桁や、“なし”の日もあり、状況は落ち着き11月にはインド入国時に求められていた出発前のPCR検査やワクチン接種証明などの措置すべて撤廃。

しかし、その後、12月に入り、特定の国・地域での新型コロナウイルス感染の再拡大を踏まえ、無作為に国際線搭乗者に対するインド到着時のPCR検査を再開したところ、陽性者が立て続けに出たことから、インド入国検疫ガイドラインを改定し、2023年1月1日より、リスクが高いと見なされた日本、中国、韓国はじめとする6か国からの旅客に対して出発前RT-PCR検査が再び義務付けられるに至り、折からガヤ空港で陽性反応が出たタイなどからの入国者が、隔離されたとの報道があった。

その後2月10日、検査の要件を撤廃。これに伴い、当該国・地域からの入国予定者に対し、渡航前に義務付けられていた「Air Suvidha」ポータルページ(デリー空港ウェブサイト)でのオンライン申告も不要となり、入国に関する制限はすべて撤廃された。

印度山日本寺竺主に就任されて6年目を迎えられる北河原公敬・東大寺長老は、卓越した機動力と人徳をもって、当法人事業の啓発とその後援獲得に邁進され、着実な成果をあげて下さっていることを、先ずは特筆することとする。

その上で、事務局・役員一同は深甚の感謝申し上げつつも、現実の当財団の運営や、時代即応の広報はじめ募財活動の転換や発展を、真摯に推考しなければならないとの認識を持っている。

## III. 今年度実施の公益諸事業の概要

### (1) 無料の幼児教育・初等教育事業

今年度初頭から通常通りの開園。

2022年度の菩提樹学園の在園児数は；

1年次新入園児数＝2クラス：36名

2年次進級児童＝1クラス：31名

また上述の人数に加えて、訓練入園クラス(週1回の通園)園児：約40名(年間平均)が在籍し、その大多数が翌年の新入募集に備えて編入された。

今年度より園児達の小学校入学時の学習レベルを向上させるため、今年度から年少クラスは30分、年長クラスは1時間半授業時間を延長。年少組：8:30～13:00 年長組：8:30～14:00の時間帯で園児達の指導にあたっている。

**主な行事**：コロナ禍の影響を受け3年ぶりの行事開催となった。

- ・花まつり(ブッダジャヤンティ)：2022年5月15日  
日本寺本堂で園児ひとりずつお誕生仏への甘茶供養。園児たちの絵画を本堂に展示。
- ・運動会：2022年10月19日  
園児たちの競技に加え、保護者や兄弟が参加できる競技を組み込んだ運動会の開催。
- ・創立44周年記念お遊戯会：2022年12月8日  
先生の手作り衣装を纏い、保護者の前でダンスを披露。

年長組の園児31名は年度末の習熟テストを終え、全員が初等小学校へと進学を果たした。

## (2) 無料の医療および防疫事業

2021年度から活動の拠点を菩提樹学園園舎内に移し、園児の栄養・健康管理や、地域の公衆衛生向上の為に活動を行っている。公衆衛生向上活動の一環として、園児に月1回の虫下しの投与や、感染予防策としての手洗いの指導、爪切りなどを実施。また園児への栄養バランスの取れた給食や、ビタミン剤の投与などの栄養管理に努めている。2023年2月9日全園児を対象に医師による健康診断を実施。

## (3) 人文科学高等学術研究機会の提供

### ①International Buddhist Conference

本年度のConference(結集)は、現地の新型コロナウイルス感染状況は落ち着きを見せたものの、インドへの入国制限や日本国内の感染状況を踏まえ、渡印が困難と判断し、開催を次年度に繰り延べることにした。

### ②会場提供

2022年9月～12月、3ヶ月間ブッダガヤで実施されたアメリカ・アンティオーク大学とカールトン大学共催の宗教学海外演習に於いて、日本寺本堂を座禅実習の場として会場を提供。

## (4) 付設図書館を拠点とする各国・地域の宗教文化に関する資料の収集と展示及び閲覧提供

①「資料の収集」は、駒澤大学・研究棟図書館より人文科学分野を中心とした多様な学術図書の寄贈を受けた書籍を中心に、現在これら書籍・図書のブッダガヤ移送と、IBOS(日本寺付属・仏教学東洋学研究所)収蔵に供するための準備作業にあっている。

②付設図書館における収蔵図書・文書「閲覧提供」に関しては、閲覧要求者の国籍・個人識別情報等に関して記録していない。

## (5) 現地の各国仏教寺院等、他の組織との合同行事の開催

### ①2022年5月16日 ブッダジャヤンティ (Buddha Jayanti)

お釈迦様の誕生、成道、涅槃を一度にお祝いする行事。ブッダガヤ各国寺院の比丘、僧侶らが参加し大仏(Great Buddha)前から大菩提寺までお練り後、大菩提寺にて法要厳修。番地章夫師が印度山日本寺代表として参列。

### ②2022年12月8日 成道会

番地章夫師を導師に、大菩提寺(Mahabodhi Temple)に所属する比丘衆や大塔を管理する政府機関大菩提寺管理委員会(BTMC)の役員出仕による成道会を開催。

(6) 各国仏教徒ならびに宗教団体・NGOとの交流のための研究会および集会の開催機会提供など本年度内にこの事項に包括される事項なし。

(7) 専門研究者および実践者による学術セミナー・シンポジウム等の開催

① 学術セミナー

在日インド大使館との共催、日印国交樹立 70 周年記念講演会

『古代インド仏教からの問いかけ-新しい価値創造に向けて-』を開催。

講師：入澤崇龍谷大学学長。

開催日：2023 年 1 月 13 日 場所：在日インド大使館

講演に加え、シビ・ジョージ駐日インド大使、北河原公敬印度山日本寺竺主のスピーチ、富安カナメ氏によるインド古典舞踊が披露された。来場者数 130 名、2023 年 1 月 20 日より当協会 YouTube チャンネルにて録画配信を行っている。

② 仏教文化会

宗教法人祐天寺との共催による同寺（東京都目黒区中目黒）を会場にして、写経を通して広く仏教を学び、ふれる為の有資格僧侶による一般を対象とした仏教文化会をほぼ毎月開催。計11回実施。

開催日( )は参加人数：2022年/4月8日(22名)、5月20日(24名)、6月20日(27名)、8月5日(20名)、9月9日(26名)、10月21日(26名)、11月18日(25名)、12月16日(26名)、2023年/1月20日(23名)、2月17日(30名)、3月10日(28名)

(8) 識字教育

菩提樹学園の園児を重点的に、様々な行事説明会や通達事項の趣旨説明など集会の機会を積極的に設け、その保護者や希望者を招集し、説明資料の朗読説明など、放課後の菩提樹学園の園舎において国語であるヒンディー語文字・語彙の理解広宣に努めている。

(9) 世界遺産保全の諮問機関の一員としての諸会議参加活動

当財団現地法人役員1名をガヤ県行政長官(District Magistrate)によりほぼ隔月で召集される UNESCO登録世界遺産ブッダガヤ大菩提寺(Mahabodhi Mahavihara)保全管理委員会(Bodhgaya Temple Management Committee)に委員(州首相指名常任委員)として派遣し、保全管理当局の一員として；

2022年：4月16日、6月25日、7月10日、8月10日、9月21日、10月15日、11月20日、

2023年：1月20日、3月18日

；以上開催の諸会議に出席。

(10) 巡礼者参拝者等への便益の供与

今年度も日本国内のコロナ禍の影響を受け、日本からの参拝者が依然少なく、かかる対象者は発生しなかった。

(11) 禅文化講座

日本国内の新型コロナウイルス感染状況を鑑み、本年度の現地での禅文化講座は実施を見送った。

## (12) その他

①日本寺来訪・参拝者数は、総計114,011人、その主体は地元インド国籍者であった。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
5,868	6,795	4,389	6,179	6,472	15,860	9,483	9,994	12,884	12,058	12,127	11,902	114,011

### ②ニュースレター発行

- ・2022年7月発行。
- ・2023年1月発行。

## IV. 今年度の庶務事項

### 1. 2021年度監事監査

2022年5月13日 於：当協会事務局会議室

### 2. 理事会

2022年5月31日 第32回理事会 於：当協会事務局会議室及びオンライン(Zoom使用)

2022年6月16日 第33回理事会 於：当協会事務局会議室及びオンライン(Zoom使用)

2022年2月24日 第34回理事会 於：当協会事務局会議室及びオンライン(Zoom使用)

### 3. 評議員会

2022年6月16日 第15回評議員会 於：当協会事務局会議室及びオンライン(Zoom使用)

### 4. 事務局会議

2022年：4月21日、5月19日、6月16日、9月5日、11月7日、12月8日 2023年：2月2日、3月8日

### 5. 菩提樹学園運営委員会

2022年12月1日 於：公益社団法人・日本仏教保育協会会議室及びオンライン(Zoom使用)

### 6. 部局会議

上記諸会議開催日と別項にて、および部局独自の設定により不定期的に随時開催

## V. 役員に関する事項（2023年3月31日現在）

役職	氏名	就任年月日	担当職務
評議員	岸田一雄	令和2年6月15日	法令及び定款に定める職務
〃	尾井貴童	令和4年6月16日	〃
〃	小山敬次郎	令和2年6月15日	〃
〃	篠田節子	令和2年6月15日	〃
〃	丹羽義昭	令和2年6月15日	〃
〃	古澤勝浩	令和2年7月6日	〃
理事	安孫子虔悦	令和4年6月16日	法令及び定款に定める職務
〃	加藤朝胤	令和4年6月16日	〃
〃	佐藤雅彦	令和4年6月16日	〃
〃	高輪真澄	令和4年6月16日	〃
〃	高山久照	令和4年6月16日	〃
〃	西郊良貴	令和4年6月16日	〃
〃	花岡真理子	令和4年6月16日	〃
〃	千坂成也	令和4年6月16日	〃
〃	中村康雅	令和4年6月16日	〃（代表理事、理事長）
〃	丸山良徳	令和4年6月16日	〃
監事	小澤昌弘	令和4年6月16日	法令及び定款に定める職務
〃	鎌田勇夫	令和4年6月16日	〃
〃	木村匡成	令和4年6月16日	〃

## VI. 庶務に関する事項(2022年3月31日現在)

### 1. 人事

- (1) 名誉会長 河村 建夫
- (2) 名誉副会長 安田 暎胤
- (3) 日本寺竺主 北河原 公敬
- (4) 事務局の構成
  - 理事長 中村 康雅
  - 事務総長 佐藤 雅彦
  - 財務局長 安孫子 虔悦
  - 総務局長 逸見 道郎
  - 〃 次長 大工原 彌太郎
  - 日本寺管理局長 大工原 彌太郎

- 医療局長 大工原 彌太郎  
 (兼・図書館担当)
- (5) 事務局職員： 大工原 彌太郎 (本部総務担当およびインド法人総務および光明施療院)  
 廣石 香里 (庶務担当)  
 服部 光治 (会計担当)
- (6) 日本寺駐在員： なし
- (7) 現地雇用職員： ロプサン・グトゥップ・ラマ以下の在外国雇用関係にある職員総計  
 21 名在籍は職員名簿の備え有るも、国籍・氏名などここでの詳細  
 記述省略

## VII. 現地法人役員 (2023年3月31日現在)

インド法 (1860年団体取締法 Society Registration Act 1860) により外国団体のインド国内における社会活動に適用される当法人の現地法人格

- |       |   |   |
|-------|---|---|
| 理 事 長 | Dipak Kumar Barua :<br>2022 年 9 月 逝去により理<br>事長不在。 | 現パーリ聖典協会 (Oxford University) 員 / 元同 4 人委員会<br>(執行顧問会) メンバー、現同会インド代表、元カルカッタ大<br>学仏教学部長 & 教授、国家学術勲章 (バハラト・ラトナ) 受勲。<br>ブッダガヤ大菩提寺大塔管理委員会学術顧問。         |
| 常務理事  | Balmiki Prasad Singh :                            | (現・インド自然生態系環境保護学会々長。元世界銀行副総<br>裁、元インド政府内務大臣、元文部大臣 元シッキム州総督、<br>国立ナムギャル・チベット・ヒマラヤ学研究所 (ガントク) 所<br>長、サルナート高等チベット研究所 (単科大学) 学長、元イン<br>ド森林資源環境庁長官、ほか。 |
| "     | S. Bhushan Jain :                                 | 現・共和国最高裁判所・国家法 (憲法) 法廷判事。元内閣官<br>房長官 (4 期)、元在東京インド大使館公使 (2 期)。  |
| "     | 大工原 彌太郎 :   | 公益財団法人国際仏教興隆協会・日本寺管理局長  |
| 理 事   | Mahashweta Singh                                  | ビハール州首相府顧問 (宗教学・民俗学)、ブッダガヤ大<br>菩寺大塔管理委員会委員 (州政府代表)、インド郵政電信<br>省顧問、元パトナ女子大学サンスクリット学科長。   |
| "     | 逸見 道郎   |   |
| "     | 安孫子 虔悦  |   |
| 評 議 員 | 高山 久照   |   |
| "     | 千坂 成也   |   |
| "     | Rajendra Pratap Singh (Ratan Singh) (事務総長)        |   |
| 監 事   | V. K. Karan :                                     | 医師  |
| "     | 日下 俊文   |   |
| "     | 田中 光成   |   |
| 顧問弁護士 | Ram Balak Mahto :                                 | 法廷弁護士 / 高等法院弁護士、州高等裁判所長官、元ビハー<br>ル弁護士会々長、元全インド弁護士会副会長   |

” Kumar Prasad Sinha : インド公法弁護士

## VIII. インド国外資金調達法認可団体調達資金管理登録地執行委員会 (2023年3月31日現在)

(Foreign Contribution Act of India -NGO Darpan registered Society Darpan local committee)

※ 委員長以下最少5名のインド居住者登録(Aadhar Registered PP)及びPan Registered(納税者番号登録)保持者と法定

委員長(President of Committee) : Mr. Rajendra Pratap Singh

事務長(Secretary) : Lobsang Ngudop

会計(Treasurer) : Bhaleshwar Yadav

評議委員(trustee) : Dr. Mahasheta Maharathi

” ( ” ) : Ms. Shoba Singha

## VIII. その他の法人に関する事項

特に無し。

以上。

## 事業報告の附属明細書

該当事項はない。